



今後の予定と 講座の報告



☆平和の紙芝居リレー

ゲスト 松井エイコさん

in 紙芝居はうす

9月4日(月) 午後2時～

in 豊田市こども図書館

9月5日(火) 午後1時～

※次号で詳しく報告します



☆紙芝居講座 安城 月 日

☆東浦町中央図書館 10月13日(金)

☆豊川図書館 9月27日(水)

☆豊橋図書館 10月18日、11月8日(水)

☆寿老会 秋のつどい 11月11日(土) 午後

☆JPIC 読みきかせサポーター実践講座

11月11日(土) 名古屋国際会議場

紙芝居講座あり 講師近藤洋子

JPIC ホームページよりお申し込みください

☆紙芝居文化の会 2017年紙芝居講座

11月18(土) 19(日)

東京吉祥寺東急 REI ホテル

平和の輝きを紙芝居で - まついのりこ追悼 -

講座2日目に九条の会 小森陽一さんの講演

ホテルの宿泊予約をお早めに!

コラム <ま・間・ま>

夏休みは『怖～いお話会!』どこの図書館も子どもたちの熱気でもりあがったであろうか? 話が進むにつれて、幼い子は母親にしがみついていく。でも人はなぜ怖さを聞いたり見たりしたがるのだろう。一つは暑さを一時忘れたいから。

体は緊張状態に入ると、皮膚や肌の血管が収縮し、体温が低くなるそう。二としては、お盆との関係か。お盆には死者の霊が帰ってくると、供養する習慣がある。霊の中にはこの世に恨みを抱いたものや、成仏できずに幽霊になって現れ復讐する話が作られてきた。「四谷怪談」「皿屋敷」「牡丹灯籠」などが、江戸文化として庶民の間に流行し、その流れが現代にまで続いている。人にとって『あの世』は永遠の課題であろう。

子どもたちは確かに怖い話が好きだ。話の中に入り、恐怖から抜け出した安堵感・快感。その時周りに信頼のできる人の存在があって、の経験は貴重な成長過程である。ところが今、幽霊とか、実態のないものを、与えようとしないう傾向が特に幼児の世界に現れているようだ。夏はやはり、質の良い幽霊話を子どもたちと沢山楽しみたいと思う。みえないものに心したい!



紙芝居文化の会 あいち とは

こんなことやりたい

- ・通信を発行します
- ・紙芝居講座を開催します
- ・情報交換をします

会員になるには

紙芝居文化の会にご入会下さい

詳しくは、紙芝居文化の会:

<http://www.geocities.jp/kamishibai/>

または、下記連絡先まで

紙芝居文化の会あいちの会費は不要です

愛知県内だけでなく近隣の方々もご参加下さい

連絡先

〒470-0126 日進市赤池町村東149

紙芝居文化の会あいち代表 近藤洋子

FAX 052-801-5794

kamishibaiaichi@yahoo.co.jp



紙芝居文化の会 あいち

第9号

2017.9



紙芝居文化の会とは

- ・紙芝居を愛する人
- ・紙芝居に興味のある人
- ・紙芝居を演じたい人

さまざまな思いの人、海外の人とも
出会い、交流する場です。

(2001年創立 事務局東京都三鷹市)

紙芝居講座in安城

2017.7.2 (日) 10:30～ アンフォーレホール
テーマ「作品にこめられたもの」
講師 酒井京子・日下部茂子

熱い熱気で包んで頂いた185名の参加者のみなさま、
ありがとうございました。特に地元、安城の方々には、受講しながら、スタッフとして支えていただきました。感謝しております。
その熱気を思い返し、残念ながら会場に来られなかったみなさまにも参加者の感想を中心に当日の様子をお伝えします。



観客参加型と物語完結型紙芝居で考えよう

今回の講座は紙芝居とは何か？を作品にこめられたものから探っていく、という今までにない切り口でした。
参加者の多くは日常、作品を演じながら紙芝居の魅力を感じています。講師の言葉にうなづく姿がたくさんありました。

(参加者感想)

- ・講師の方々が編集された当時の話が興味深かった。
- ・講師の方が演じられているのを見て、自分で読んだだけではつかみきれなかった「作品の奥深さときらきら光るもの」が見えてきました。
- ・歴史について今回考えさせられました。戦争に悪用された歴史を踏まえ平和の紙芝居をやっていきたい。
- ・今まで3回参加させていただきましたが、今回も充実した講座でした。講師の方の率直なご意見同感いたしました。
- ・この講座を私の始めの一歩として踏み出したい。



会報と紙芝居の販売も大盛況でした

今回、一番盛り上がったのは参加者の実演時間！
会場中意見が飛び交い、喧々諤々でした。



(参加者感想)

- ・講座参加者の実演とコメントはとても勉強になりました。
- ・演じるのに立ち位置や間の大切さを学びました。
- ・舞台の大切さ、コミュニケーション、聞き手への配慮。
- ・もっと紙芝居のこと、作品の奥の奥まで感じないと人には伝わらないとわかりました。
- ・共感とコミュニケーションの深い部分を感じた
- ・ひとりよがりにならない、作品を選ぶ大切さ
- ・作品の背景や思いを知って、もっと読み込まないといけな

(実演した紙芝居)

おひやくしょうとえんまさま
カヤネズミのおかあさん
でんしゃがくるよ
のばら
ひーらいたひーらいた



(参加者感想 これから学びたいこと)

- ・幼児用の紙芝居が意外にも難しいとかんじています。小さい子向けのものを集めた講座を。
- ・作り方を知りたい。地方の昔話を紙芝居にしたい。
- ・方言、イントネーションが違ってもいいのでしょうか？
- ・読む前後、時間のすすめ方、プログラムのたてかたの講座も。
- ・舞台を子どもがあげたがります。どう対応すれば？
- ・良い作品vs悪い作品の実例をあげてほしい
- ・私の近くの場所で講座をやしてほしい

学べば学ぶほど、新しい課題がみえる
今度はあなたの近くで少人数の会を開いてみましょう！
みんなでいきますよ！

交流会

18:00～ グランドティアラ安城

美味しいフランス料理をいただきながら、初対面の方々とともに話が弾みます！

参加者の「みんなひとこと おもいをこめて」につづいて
安城ゆかりの新美南吉の紙芝居『ぬすびととこひつじ』



2017年2月12日に亡くなられた まついのりこさんを偲んで
日下部さんと酒井さんから、たくさんのお話を伺いました。
次々に新しいものに挑戦していく作品作り
ベトナムとの交流の楽しいエピソード
紙芝居の理論化と本物の紙芝居文化を伝える組織作り
熱い情熱の元にあったものは、
平和を愛する心と人を信じる思いだったのでは。



のりこさんの思い出を語る 日下部さんと酒井さん

2004年、三河安城駅にまついのりこさんをお迎えに行って
豊田市で紙芝居講座を開いたことを思い起こしました。
13年経って、三河安城駅の前で、紙芝居を愛するたくさんの人たちと集えて幸せな1日でした。ありがとうございました。



最後は
紙芝居あいち代表の
近藤さんがお礼の言葉

